



▲羽瀨さん手づくりの花器に生けられた花

楽しい踊りと寸劇で みんな笑顔になあれ

城崎には、趣味を活かしてボランティア活動をしているグループがあります。「見る人を笑顔にしたい」。そんな思いを胸に、日々、元気に生活を送っている一人の女性を紹介します。

羽瀨 ^{かつこ} 勝子さん（65歳） 城崎町湯島在住

笑顔と安らぎを届け 施設訪問



▲城崎婦人民踊サークルの代表で施設の訪問活動が続ける羽瀨さん。訪問活動の際には、利用者に生け花の指導も行うこともあり、一輪の花の美しさを伝えている

「踊っているときがとてもしいです。見る人に感動と夢を与え、美の心が伝わるような舞踊を目指しています」と、屈託のない笑顔で話します。

このグループのこだわりは、手づくり感あふれる演技を披露することです。使用する道具はすべてメンバーの手づくりで、寸劇のセリフから振付けまでの台本は、羽瀨さ

「城崎婦人民踊サークル」は、城崎を中心に市内の福祉施設などで、日本舞踊のほか、歌や寸劇などの披露をしているメンバー6人のグループです。

サークル代表の羽瀨さんは、「踊っているときがとてもしいです。見る人に感動と夢を与え、美の心が伝わるような舞踊を目指しています」と、屈託のない笑顔で話します。

「祭りの踊り子や指導にほん走」

羽瀨さんは、9月に城崎で行われる「但州湯島の盆」に参加しています。

この行事は、富山県の「おわら風の盆」の踊りを、城崎温泉街の情緒に合うように

んが生活の中の空いた時間に制作しています。

寸劇を見た人からは、「手づくりの温もりが伝わってきて心が和みます」と毎回好評です。

施設利用者などに笑顔と安らぎのひとつを届けるこの活動は、平成10年に、こころ豊かな地域社会づくりに貢献したと評価され、県のくすのき賞を受賞しました。

また、羽瀨さんは、毎年6月に開催される「城崎温泉 YOSAKOIまつり」のよさこい委員会の一人として活動し、自らも踊り子の一人として参加しています。年々参加チームも増え、まちの活性化と互いの交流を深める活気ある祭りになっています。

さらに、総合学習の一環として祭りに参加している城崎中学校1年生の踊りの指導にも当たっています。毎年4月中旬から5月下旬にかけて行い、短い期間の中、熱意と愛情をもって教えています。

羽瀨さんは、「子どもたちはとても熱心に取り組んでくれています。私もそれに応えられるよう、日々、向上心を養わなければいけません」と子どもたちからよい刺激を受けながら、踊りと祭りの魅力を次代に伝えていきます。

「2年前から我が家の田畑を自然農法の無肥料栽培に転換しました。手間と時間はかかりませんが、その分、体にならず、生命力のある食材を日々食することで、健康な生活の基礎ができるのではないかと思います」。そんな羽瀨さんに今後の目標を聞くと、「人を笑顔にするには、自分も元気で笑顔でいることが大切です。これからも、踊りを通してたくさんの人に喜んでもらいたいですね」と優しい笑顔を見せていました。

羽瀨さんは、仕事に趣味にと、多忙な日々の生活を楽しめるために、人一倍、健康に気を遣っています。

いつまでも元気で
人々に喜びを



▲寸劇「白浪五人男」で、会場は盛り上がりを見せた(2月15日・城崎健康福祉センター)